

【福岡】九州大学は九州電力などと共同で、地形を考慮した風の流れのシミュレーション予測と実際の風力発電の発電量との関係を確認した。シミュレーションを九州電力の長島風力発電所（鹿児島県長島町）に適応、2010年から2年間の

発電量との関係を調査。ことを明らかにした。

当たりの発電出力は2400キロワットを対象に行つ

とに当たる風の強さに強弱が発生、発電量に影響することが分かった。これにより発電量が比較的多い地点に風力発電を設置することが可能になるという。九州大学は今後、風力発電の発電量予測の精度を高める研究を行う考えだ。

同一発電所内でも周辺の調査は標高250-400

00キロワットを対象に行つ

調査は標高250-400

00キロワットを対象に行つ

風力発電

発電量、地形が左右

九大が模擬実験で実証

地形が影響して風車ごと00

00の山地の尾根と斜た。その結果、地形によ

る発電量に違いが生じる面に設置した21基（1基

）について風車の羽根の部分ご

とに当たる風の強さに強弱が発生、発電量に影響することが分かった。これにより発電量が比較的多い地点に風力発電を設置することが可能になるという。九州大学は今後、風力発電の発電量予測の精度を高める研究を行う考えだ。